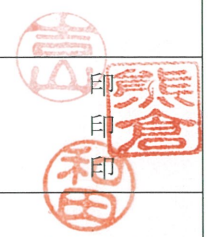


論文審査及び最終試験又は学力の確認の結果の要旨

甲	乙	氏 名	楠 真帆
学位論文名		Effect of Age on Effectiveness of Vonoprazan in Triple Therapy for <i>Helicobacter pylori</i> Eradication	
学位論文審査委員		主 査	吉山 裕規
		副 査	熊倉 俊一
		副 査	和田 孝一郎
<p><b>論文審査の結果の要旨</b></p> <p>胃炎や胃がん等の原因である <i>Helicobacter pylori</i> の除菌療法は、胃酸分泌を抑制して菌を増殖期に誘導しつつ、複数の抗菌剤を作用させることで効果を発揮する。しかし、高齢者では若年者に比べてもととの酸分泌能が低下しており、酸分泌抑制剤の選択が重要になる。そこで酸による活性化を受けて初めて作用する従来の酸分泌抑制剤(PPI)と、カリウムイオンの取り込みを競合的に阻害して強力かつ持続的な酸分泌抑制作用を有する vonoprazan について、除菌治療における有効性と年齢の影響について、後ろ向き解析を行い、比較・検討した。</p> <p>2013年1月から2017年4月に出雲市立総合医療センターで一次除菌療法を行った1172例と、二次除菌療法を行った157例を対象とした。除菌成功率は一次除菌が86.9%、二次除菌が91.1%であった。一次除菌で vonoprazan を使用した場合の除菌率は92.5%であり、PPIを使用した場合の除菌率83.5%よりも優れていた(<math>p &lt; 0.001</math>)。また、多変量解析においても vonoprazan の使用は除菌成功における有意な因子であった(オッズ比2.36, 95%信頼区間1.55-3.56)。年齢別では vonoprazan のPPIを上回る有効性は39歳以下で顕著であり、40代や50代でも認められたが、60代、70代では有意差がなく、両者の除菌率の差は年齢が上がるにつれて縮小した。性別や内視鏡的胃粘膜萎縮度は、vonoprazan の有効性に影響しなかった。一方、二次除菌においては、vonoprazan がPPIを上回り有効であるとは言えなかった。</p> <p>これより、酸分泌が高齢者よりも高い39歳以下や40代、50代の一次除菌においては、従来のPPIよりも vonoprazan の使用により除菌成功率が高まるが、60代、70代では両者に差が無いことが示された。本研究の成果は、<i>H. pylori</i> 除菌治療における酸分泌抑制剤の選択に有用な知見を与えるものであり、学位授与に値する。</p>			
<p><b>最終試験又は学力の確認の結果の要旨</b></p> <p>申請者らは、ピロリ菌の除菌成功の鍵といえる胃酸分泌抑制剤の使用法について、高齢者では酸分泌能が低下しているため、効力の強い新規薬剤ではなく、従来型の薬剤を使用しても同等の除菌効果があることを示した。医療費抑制に有用な所見であり、関連知識も概ね水準に達しており、学位授与に値すると判断した。(主査: 吉山裕規)</p> <p>申請者は、<i>H. pylori</i> 除菌療法における vonoprazan の効果をPPIと比較検討し、若年者の一次除菌での vonoprazan の有用性を明らかにした。関連領域の学識も一定のレベルに達しており、学位授与に値すると判断した。(副査: 熊倉俊一)</p> <p>申請者は <i>H. pylori</i> 除菌治療における酸分泌抑制剤選択の重要性を、高齢者と若年者の酸分泌能という視点から検討した。その結果、一次除菌での酸分泌抑制剤の選択は若年者において除菌成功の有意な因子であることが示された。本研究は除菌療法に関する重要な知見であり関連知識も豊富であることから学位授与に値すると判断した。(副査: 和田孝一郎)</p>			



(備考) 要旨は、それぞれ400字以内とする。